

特集 団体紹介～課題を抱えた当事者が社会貢献を目的に立ち上げた活動～

市民活動の中には、課題（病い）を抱えた当事者が、自らの経験をもとに何か社会に貢献できることをしたいと考えて立ち上げた活動があります。自分が辛い状況の時、情報交換・交流の場や回りの理解を欲していたなどの経験から、当事者が発信する必要性を感じ、同じ苦しみを抱える人の一助になりたいと一歩を踏み出したことはとても大きなことと言えましょう。交流の場以外にも、会報の発行や電話相談、学習会の開催などもあるようです。

しかし、団体運営上の悩みもあります。たとえば、市民活動共通の悩みである資金にしても、相談費用を当事者からはもらいにくいとか、対象地域が広域なことやテーマ性が助成金の対象外のケースもあったり、また相手の状況がわかるゆえに24時間365日の活動になり、プライベートとの切り分けが難しいなどは特有の悩みのようです。

今号では、「小平断酒会」は代表の方からの寄稿文を、また「脳卒中患者友の会 ピアズ小平」はその支援に入っている当法人の理事による紹介文を掲載します。

小平断酒会

アルコール問題は、私たちのまわりに身近にありながら、あまり大きく取り上げられる事はありません。しかし、この問題はアルコール依存症（昔のアル中）の本人とその家族の皆さんとの間では深刻な問題として取り扱われています。

小平断酒会は、この深刻な問題を本人たちと家族の皆さんが集まって発言する場です。アルコール問題は、アルコール依存症の症状ばかりではなく、ドラッグ（薬物）・ギャンブル・買い物依存症や様々な障害（精神疾患・気分障害等）、また家族問題・経済的困窮などあらゆる分野まで含んでいます。皆さんで語り合う事によって、情報を得て、自分一人で悩み苦しむ事から脱出したいと思います。先ずは何回か見学参加（無料）して下さい。入会は有料です。（小平断酒会代表・三田隆一）＊「小平断酒会」の活動は「あすぴあ通信33号（2013.6）」でも取り上げていますのでご参照下さい。



グなどを事業内容に掲げ、常に新たな参加呼びかけの努力をし続けており、入れ代わり立ち代わりではあるものの、各回新たな参加者を得ています。また、市外から継続的に参加している方もおり、継続的な活動のできる「団体」への成長をはかっています。

設立経緯を知ると、発起人の中村氏の個人的な事情がきっかけではあるものの、我々市民が直面し得る、また実はしている様々な問題が見えてきます。中村氏が「当事者」になったのは30歳代。この年代で自ら「市民活動」をなどと考えている人は稀で、中村氏もそんなことは考えていました。リハビリ病院を退院する折にはまだ38歳。退院時に医療ソーシャルワーカーのサービスは無く、2年間は自宅で引きこもり状態となっていました。人と話をする場を求めて「中途ピアくにたち」「ピアズ金沢」といった団体を探し当て、移動が困難なため自費でタクシーを使って参加するも資金が続かず断念。ならば自分の居るところで立ち上げようと始めた取り組みです。会の運営のノウハウは現在習得中、協力者やメンバーも募集中、自己管理を最優先にしつつ、活動の継続に向けて努力中です。

困難と見えるのは、つながりたい当事者やその周りの方との接点を持ちにくいことです。背景には、移動の困難、活動費の問題、コミュニケーション能力に関する障害などがあります。これらについては行政や医療の課題もあるものの、生活する市民が課題としてとらえて解決に向けて取り組める要素があります。既に事業化している活動団体もありますが、「多くの場合はこうだろう」の思惑の隙間は「当事者」が気づかせてくれます。

市民がより多様な情報交換の「場」を選べるようになってほしいものだと感じ、ピアズ小平の「団体」への脱皮を楽しみにしています。

（NPO 法人小平市民活動ネットワーク理事 池田葉子）

小平断酒会

例会：毎月第2・4火曜日夜7時～9時
アルコール相談と懇談会：毎月第3土曜日午後1時～5時
★直近の活動日は9月20日（土）予定
場所：いざれも小川西町公民館
参加費：無料、要予約
連絡先：三田隆一（社会福祉士）☎090-4248-7524

脳卒中患者友の会 ピアズ小平

「脳卒中患者友の会 ピアズ小平」は、脳卒中患者本人が必要に迫られて始めた活動で、2か月に1回の定例会を既に2年以上コンスタントに運営し続けています。会の目的は「社会貢献」と言い切る代表の中村さん。情報交換、交流、ピアカウンセリン

脳卒中患者友の会 ピアズ小平

定例会：奇数月の第二土曜日午後。
★直近の活動日は9月13日（土）午後2時～4時
活動場所：あおぞら福祉センター
代表：中村正人
連絡先：070-5517-2642（午後）